

太田川の治水 ~高潮対策~

【高潮対策事業】

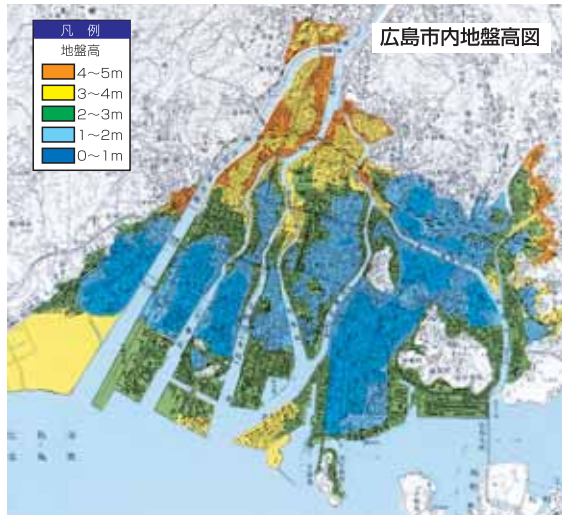
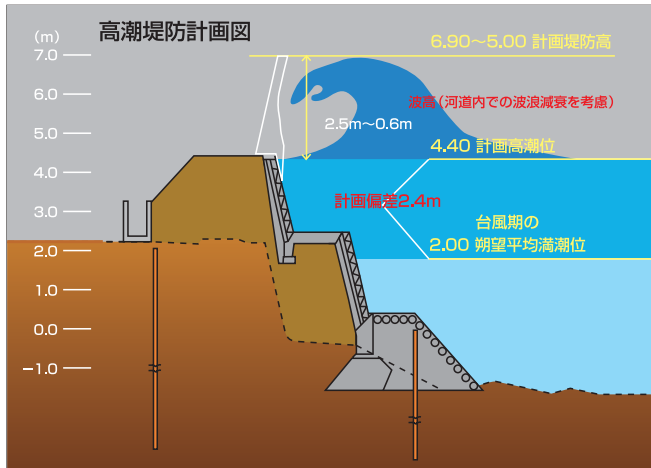
広島市中心部は、太田川デルタ上に発達した都市で市街地の多くは地盤が低く、また、広島湾が南に向いて開いていることから、高潮に対してきわめて不利な地形条件にあります。このため台風などの襲来により、これまでも数多くの高潮被害を受けてきました。

そこで、伊勢湾台風級の台風が襲来した場合にも、広島市内を安全に高潮被害から防御できるよう、太田川放水路および市内派川において高潮堤防を建設する「高潮対策事業」を昭和55年から実施しています。また、阪神・淡路大震災を契機に、平成7年度から堤防の耐震化対策を実施しています。

【高潮対策計画】

太田川の高潮対策は、伊勢湾台風級の台風が広島湾を通過した場合に起こる高潮にも安全に対処できるよう、台風期期望平均満潮位 T.P. 2.0m に計画偏差 2.4m を加えた T.P. 4.4m を計画潮位とし、計画波高 0.6~2.5m (河道内の波の減衰を考慮) を加えた高潮堤防を建設する計画です。

(T.P.:東京湾平均海面を0mとした高さの基準で、一般に標高と呼ばれています。)
(計画偏差:台風時の風による吹き寄せと気圧低下による吸い上げのため通常の潮位より上昇する高さ。)



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分1地勢図、5万分1地形図を複製したものである。(承認番号 平18 中複 第265号)

整備事例と整備箇所

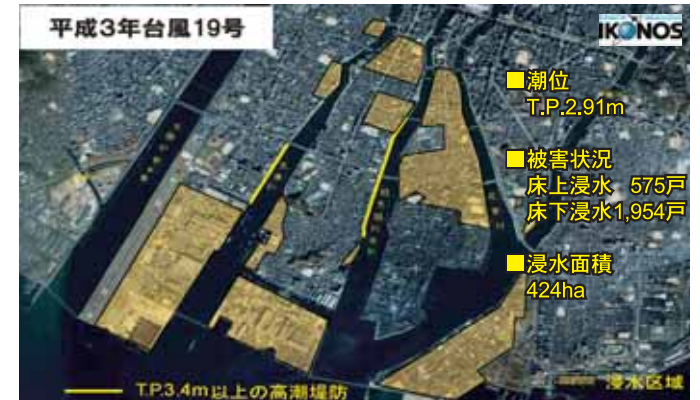


高潮対策の効果

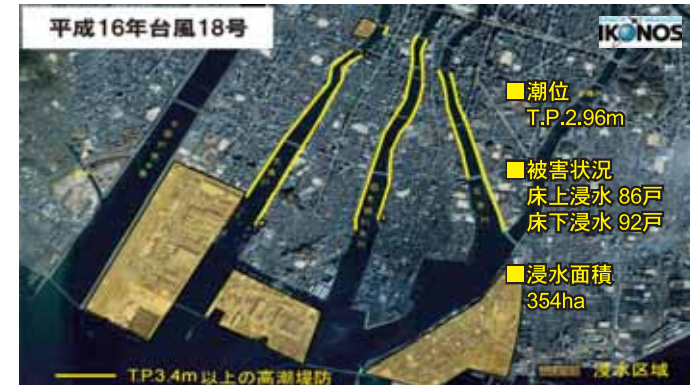
大規模な高潮浸水被害が発生した平成3年9月の台風19号に比べ、これを上回る既往最高潮位 T.P. 2.96m を記録した平成16年9月の台風18号の浸水範囲は明らかに減少しています。これはこの間に進んだ高潮対策事業の効果によるものと考えられます。

また、高潮堤防整備は水位上昇や波浪による浸水被害を解消するだけでなく、老朽化や潮の干満の影響により弱体化した護岸を補強する役割もあります。

また、堤防完成箇所は水辺の散策や通勤・通学にも利用されており、良好な生活空間を創出するフィールドとなっています。



平成3年9月27日台風19号時の浸水区域



平成16年9月7日台風18号時の浸水区域